要　旨

航空気象では飛行機の運航や基地予報や航空予報図に 0°C 層の高さを要求されたり，予報するように規定されている．気温予報が数値予報でできれば問題はないが，0°C 層の高さの予報について，それに対処するために本邦各地の高層観測から 0°C 層の高さを調べてみた．0°C 層の高さは大気の垂直温度分布で一義的にきまるから，夏高くなり冬低くなる．平均では離島を除いて鹿児島の 7 月が最高で 17,647 gpf に達し，冬の北海道では殆んど地上に現われない．日々の変化を標準偏差からみると夏季は変動が小さく，変動が大きくなるのは南海上では冬，陸上では春秋である．航空機が 10,000 feet 位までの間で 0°C 層に関係なく飛べるのは夏の 4 ケ月間である．

新　書　紹　介

雪氷の研究 No. 3
最近の雪氷に関する研究展望 (1950～1958)

日本雪氷学会　B5版 139頁 定価250円

解説編（7～30頁）と文献編（31～122頁）の 2 部に分かれ，解説編は24項目に分けて，その道の専門家二十数氏が担当している。文献編も解説編と同じ24項目に分けて，最近10ヵ年間に出た文献1500を記載している．また巻末には略名表，雑誌・資料名一覧表，研究機関名一覧表（宛先付）がついている．

解説編の内容は，各項目毎に，雪氷と生活や産業との関係等が，筆者の持味で語られていて，雪氷専門の以外の人にも大変面白い．

磯野謙治著　雨の科学

恒星社厚生閣発行 定価350円 B6版 203頁

雲はどうしてできるか，雨や雪はどうのようにして降るか，人工降雨はどのようにして降らせるか，などをわかり易く説明した本．

雨についての研究の進歩を通して，科学はどのように発展して来たか？　また科学の研究はどのように進めなければならないか，を暗示している．著者の自然科学観がよく表われていて，興味深い．

ひょうの成因の新説，暖かい雨，ジェット機雲など最近の話題が盛り込まれているが，最も興味のあるのは著者の専門である人工降雨に関する検討で，降った雨が果して人工降雨であるかどうかを苦心してきめる所，であろう．

気象の英語 (37)

40.　big, large, litte, small など

〝大きい〟という意味の最も普通の語は，great, big, large であるが，それらの違いは，物体の大きさ，広さに関していうときは，big が最も普通の言葉で，largeは多少形式ばる．Great になると大変 formal で，詩的であり，その物が notable または印象的 (imposing) であることを示す．たとえば，次の語を無理に区別して訳せば

a big man＝肥った男
a large man＝体かくのよい大男
a great man＝偉大な男

といった具合であろうか．a big tree, a large tree, a great oak はどう区別して訳したら良いだろうか．

程度とか量とかについて云うときは，great beauty, great mistake などのように great が普通の言葉で，big もよく使われる．large は程度をいう時には使われず，量についてだけ用いられる。たとえば，a large number など．

〝小さい〟については，small, little があり littl は，big の反対で大きさ，広さ，量について使われる最も一般的な言葉，small は large および great の反対で (little と同じようにも使われるが)，制限されているもの，大きさが並以下のものなどに特に使われる．big は little の反対，small は large および great の反対だから，大小という時には，

large and small など

といって，big and small などとは云わない．おとぎばなしでも，little bears が出れば，大きな方は，big bears であって，large bears ではまずい．

〝小さい〟には，以上の他に，非常に小さいことを意味する tiny，並みよりはるかに小さいものを指す diminutive，見分けるのがむづかしい程小さいことを示す minute がある．

〝大きい〟にも上述のほかに，非常に大きいことを示す huge, immense，広がりの大きい extensive，容積の大きい bulky, massive, capacious, voluminons などがある．　（有住直介）